

嘔吐物処理演習手順書



群馬県感染症対策連絡協議会 ICN 分科会
教育ワーキンググループ

2015 年 5 月作成

2025 年 8 月改訂

嘔吐物処理方法の演習方法

蛍光塗料と市販のおかゆ等で疑似吐物を作り、嘔吐物の処理を行い評価する方法です。

この演習でできること

1. 疑似吐物を用いて、正しい嘔吐物処理の方法を研修対象者に教えることができます。
2. 疑似吐物を用いることで、実際の嘔吐物処理方法を研修対象者が体験することができます。
3. 蛍光塗料・ブラックライトを使用することで、実際にどの程度嘔吐物が飛び散るのかを確認することができます。
4. 蛍光塗料・ブラックライトを使用することで、嘔吐物処理後の拭き残しを確認することができます。
5. 数人で嘔吐物処理をチェックすることで、処理のやり残しのチェックができます。

【準備する物品】

- ・ 使い捨てマスク
- ・ 使い捨て手袋
- ・ 使い捨てエプロン
- ・ 吐物を覆うもの：ペーパータオル（新聞紙など）※但し新聞紙は破れやすい
- ・ 吐物を処理するもの：タオル（ふき取れれば古い物、どんな物でも可）
- ・ ビニール袋（小、中、大）
- ・ 消毒薬（次亜塩素酸ナトリウム）
- ・ 消毒薬希釈用のバケツなど（事前に必要量の印をしておく）
- ・ 計量用カップなど（事前に必要量の印をしておく）
- ・ 市販のおかゆ（疑似吐物に見立てられる物で代用可）
- ・ ブルーシート
- ・ ブラックライト（必要時）
- ・ 蛍光塗料（必要時）

【演習準備】

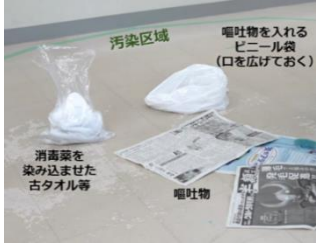
初めて演習を行う場合は一度自身で行ってから演習指導をすることをお勧めします。

1. 演習を行う人数に合った会場を選定する。換気の良い場所や周囲に物が少ない場所が良いと思います。（ブラックライトを使用する場合は、暗くできる部屋が望ましい。）
2. 市販のおかゆに蛍光塗料を混ぜる。ブラックライトを当て、蛍光塗料が光って見えるかを確認してください。
3. 疑似吐物を落とす場所は汚れないように、ブルーシート等で保護する。おかゆが飛び散る可能性がある場所は片付けをする。

【演習手順】※手順書は2人1組で作業する場合を想定しています

		指導や観察のポイント（☑で確認）
1	準備	
①	数人でグループを作ってもらう。 嘔吐物进行处理する人（処理者）、作業を補助する人（補助者）、それらをチェックする人を決めておくが良い。	☐ 研修の人数や会場の広さ等に合わせて、グループの人数は調整をする。 ☐ 嘔吐物进行处理する人と作業を補助する人の2名で対応すると効率的であることを説明する。
②	蛍光塗料の混ざったおかゆを90cm程度の高さからこぼして嘔吐物に見立てる。 ＜方法①＞ 蛍光塗料がどの程度飛び散ったかを考えてもらいながら処理の演習へ進む。 ＜方法②＞ 蛍光塗料がどの程度飛び散るのかをブラックライトで確認してから処理演習へ進む。	☐ 実際嘔吐する場合は、腹圧がかかっていることが多く、おかゆを落とすよりも広範囲に嘔吐物が飛び散る可能性があることを説明する。

2	前処理	
①	周囲にいる人を離れた場所へ移動させ、窓を開けるなどして換気をする。	☐ 汚染された場所を確保し、他者が侵入しないようにする。 ☐ ①～③は、可能であれば同時進行で行い、嘔吐物の処理は最少人数で行うと良い。
②	作業者は手袋を着用し、嘔吐物の飛散を防ぐため、ペーパータオル（新聞紙など）で嘔吐物を覆う。 作業後、手袋を外し流水と石鹸で手指衛生をする。	☐ 嘔吐物が新聞紙などで覆われていれば、慌てることなく作業できる。 ☐ 嘔吐物は感染の危険があるため、素手で触らない。
③	嘔吐した人に対する対処を行う。	
3	嘔吐物処理	
①	作業者はマスク、使い捨てのガウンまたはエプロン、手袋を装着する。 	☐ 作業手順を確認する。 ☐ 消毒薬が飛散した場合に備え、補助者もエプロン、マスク、手袋をつけることを説明する。
②	バケツに 1000ppm (0.1%) の消毒液を作る。タオルをビニール袋に入れ、消毒薬をしみ込ませる。(補助者は汚染区域の外で作業する。④、⑧ で使用する。) ※消毒液の作り置きはしないこと 	☐ 演習対象者が 1000ppm の濃度を知っているか確認を行う。 施設で使用している次亜塩素酸ナトリウムの濃度がどの程度であるか、1000ppm に薄めるためにはどのようにするかを説明する。(参考資料 1) 消毒薬の作成方法 ☐ 塩素の濃度は濃いため、吸入することで気分が悪くなることがあるので注意する。 ☐ 作業に夢中になり、エプロン等が床について不潔になったりしていないかを確認する。 ☐ 周囲にいる作業協力者に嘔吐物がついていたりして不潔になっていないかを確認する。特に嘔吐者の介助を行っていた人など。

③	作業しやすいように必要物品を配置する。(汚染区域外に、写真とは別のビニール袋をもう1枚準備しておく。) 	□汚染区域には処理者のみが入るように説明する。 □必要物品（消毒液をしみ込ませたタオルなど、嘔吐物を入れるビニール袋）が準備できているか確認する。
④	②で吐物を覆ったペーパータオル（新聞紙など）で嘔吐物を取り除き、嘔吐物を入れるビニール袋へ入れる。 次にタオルで拭く。 ※目に見える汚れがなくなるまで繰り返す 	□ビニール袋は、あらかじめ開いて準備しておくといよい。 □作業に夢中になり、エプロン等が床について不潔になったりしていないかを確認する。 □外側～内側にまとめるようにして取り除き、嘔吐物を広げていないかを確認する。 □汚染区域に入った人が、不足物品の補充のため、汚染区域から出ていないか確認する。
⑤	拭き取ったタオルはビニール袋へ入れる。 	□外側～内側にまとめるようにして拭き取り、嘔吐物を広げるように拭いていないかを確認する。 □消毒液を染み込ませた未使用のタオルも一緒にビニール袋へ入れる。

⑥	全て入れ終わったら、ビニール袋の口をしっかりと縛る。 	□詰め込み過ぎて、袋が破れたり、回収物が飛散したりすることのないように作業が行えているか確認する。 □ビニール袋の口を縛る時、中の空気を勢いよく抜くとウイルスが空気中に飛散する可能性があり危険なため注意する。
⑦	嘔吐物入りのビニール袋を別のビニール袋へ入れる。装着している手袋を外して、同じビニール袋に入れる。 	□嘔吐物処理をして汚染された手袋は、外側の袋の内側だけに触れる。外側には触れないように注意する。 □手袋は正しく外されているかを確認する。
⑧	補助者は処理者に汚染区域外から新しい手袋と消毒薬を浸み込ませたタオルを渡す。 処理者は再度手袋をし、嘔吐物を拭き取った場所に消毒液を浸み込ませたタオルで10分以上覆っておく。 汚染区域にいた人は、汚染区域から出る前に靴の底や周囲の汚染された物品等（車椅子、ゴミ箱、など）を、消毒液を浸み込ませたタオルで拭く。	□次亜塩素系の消毒液は、金属を腐食させるため、金属との接触は10分程度とする。 □⑧～⑨はそれ以前にきちんと拭き取れていれば必ず必要な項目ではない。嘔吐物の量が少量であれば、省略可である。 □靴や汚染された物品で、ウイルスを広げないように注意する。
⑨	⑧のタオルを⑦のビニール袋に入れる。	

⑩	手袋、エプロン又はガウンを外しての⑦のビニール袋に入れる。最後にマスクの表面は触らずひもを持って外し、同じ袋へ入れる。 袋の内側に触れないようにしっかり縛る。 	□嘔吐物処理して汚染された手袋のまま袋の外側に触れないようにする。 □汚染した手袋で周囲に触れていないかを確認する。 □詰め込み過ぎて、袋が破れたり、回収物が飛散したりすることのないように作業が行えているか確認する。
⑪	流水と石鹸で手指衛生をする。 以降、別の作業を行う場合は、その都度手袋やエプロンを着脱して手洗いを行う。	□アルコールはノロウイルスに対して効果がないまたは効果が薄い場合、流水と石鹸で手指衛生をする。
⑫	水拭きをする。 ※新しい手袋を装着する	□次亜塩素系の消毒液は、金属を腐食させるため、よく水拭きをする。
⑬	しっかりと流水と石鹸で手指衛生をし、うがいをする。ウイルスが付着していることも考えられるため、可能であれば着替えもする。	
4	評価	
①	演習が終了したら、周囲を暗くしブラックライトを当て、どの部分に拭き残しがあるかを確認する。	□拭き取った周囲だけでなく、壁、ブルーシートの外側の床、処理者のユニホームなども確認する。
②	蛍光塗料の付着していた場所を評価用紙に色塗りする。 チェック者は手順通りに嘔吐物処理が出来ていたかを評価をする。 グループ内でできていた点・できなかった点などを伝え合う。	
③	複数のグループがある場合は、グループごとに発表する。	□発表をすることで、グループ内では気づけなかった点を気づくこともできる。